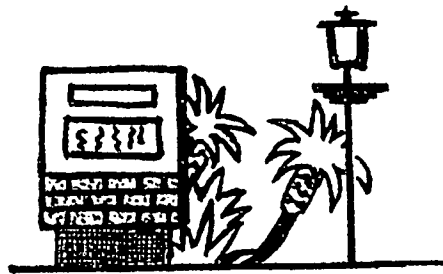


昭和60年9月22日(日)

第141回

史跡めぐり資料

日本橋・銀座方面



レンガ銀座の碑とガス灯の碑

越谷市 郷土研究会
加藤 幸一

第141回 史跡めぐり

- 案内場所 日本橋・銀座方面
日本橋周辺史跡探訪及び銀座通り散策(銀ブラ)
- と き 昭和60年9月22日(日)
- 集 合 午前8時30分 越谷駅前集合
- コース 越谷駅^{東武線}→北千住駅^{日比谷線}→上野駅^{銀座線}→三越前
三越本店(旧越後屋呉服店)——^{じっけんだな}十軒店(越ヶ谷
びなゆかりの地)——日本銀行(銀座跡)——
日本橋(全国道路基準)——^{うかがし}魚河岸跡記念碑——
江戸歌舞伎発祥の碑——煉瓦銀座とガス灯の碑
——銀座跡の碑——「数寄屋橋ここにありき」の碑
——石川啄木の歌碑
- 帰 路 地下鉄銀座駅^{日比谷線}→北千住駅^{東武線}→越谷駅
- 参加費 1,200円也、(交通費・資料代他)
但し、昼食は各自弁の事
- 昼食場所 水谷橋公園 及び その周辺の食堂(そば屋)
公衆便所は 京橋小公園の交番そばにあり
- 案内者 越谷市郷土研究会理事 加藤 幸一

日本橋室町から 銀座8丁目までの 中央通りと 教寄屋橋周辺
(日本橋・京橋・銀座 方面) 加藤 幸一

1. 三越本店
ライオン像の飾られているこの店の前身は江戸最大の越後屋呉服店
2. 共同溝見学窓
電線・ガス管・水道管などを歩道の下の地下の共同溝に収めたもの
3. 日本銀行
明治に建てられた日本の中央銀行でここに江戸時代の金座があった
4. 乙姫の石像
日本橋魚河岸跡記念碑で今は魚河岸はここになく築地に移っている
5. 三浦按針屋敷跡碑
家康に仕えたウィリアム＝アダムス(日本名三浦按針)の住んだ所
6. 赤レンガの建物
明治のなごりがみられる赤レンガのビルディングで日本橋際にある
7. 日本橋
江戸時代五街道の起点となった橋で現在の橋は明治にできた石造り
8. 道路元標
わが国の道路の起点を示したもので正式には日本国道路元標と言う
9. 日本橋由来記
高丸場跡を記念して高札を形どった碑に日本橋由来が書かれている
10. 白木名木の碑
ここは白木屋呉服店のあった所で良木がでたという白木名木がある
11. フリヂストーン美術館
内外を問わず代表的な画家や彫刻家の作品が展示されている美術館
12. フィルムセンター
もと美術館であった所で今では映画に関する資料が展示されている
13. 京橋跡碑
京橋川にかかっていた橋で今は埋めたてられ橋の礎石が残っている
14. 江戸歌舞伎発祥の碑
江戸歌舞伎が猿若勘三郎により中橋南地で発祥した事を記念した碑
15. 京橋大根河岸の碑
もと京橋川にあった青果市場で神田の大根河岸と並んで繁昌した所
16. 警察PRセンター
警察関係の資料が展示されている
17. 煉瓦銀座の碑 及び ガス灯の記念碑
明治・大正まで続いた銀座の煉瓦街とガス灯を偲んで立てた記念碑
18. 東京セントラル美術館
現代画家の企画展が中心の美術館
19. 銀座発祥の碑
江戸時代ここに銀座が置かれた事を記念する碑で銀貨が鋳造された
20. アーク灯の記念碑
アーク灯とよばれる電燈がここに取りつけられたことを記念する碑
21. 銀座共同溝
銀座通りの両側の歩道の真下にそって埋められている地下の共同溝
22. 真珠王の碑
真珠養殖に成功した御木本幸吉がここに石を出した事を記念する碑
23. 藤部時計店の時計塔
戦前戦後を通し銀座の街ゆく人々に愛され親しまれてきた大時計塔
24. 日動画廊
銀座にわが国初めて誕生した画廊で銀座の画廊の発展に大いに尽くす
25. 「教寄屋橋ここにありき」の碑
昔ここに教寄屋橋が架かっていたことを後世に伝えるための記念碑

26. 関東大震災記念塔
大震災の教訓をもとに「不慮の地震に不断の用意」が刻まれている
27. 島崎藤村・北村透谷記念碑
藤村・透谷がこの秦明小学校で幼い頃に学んだことを記念した石碑
28. リッカー美術館
浮世絵版画の展示がおもな美術館
29. みゆき通り
柳の並木や赤煉瓦の歩道などがあり昔の銀座通りを促ばせてくれる
30. 石川啄木の歌碑
朝日新聞社がここにあった頃、ここに勤めていた啄木を記念した碑
31. 銀座柳の碑
大震災で焼けた銀座の柳が街路樹として復活したことを記念した碑
32. 新幸橋
大震災の教訓がきっかけとなって住民みずからの手で架けられた橋

1. 三越本店 日本橋室町1-7 (中央通り)

この店の前身は江戸時代江戸の町最大の呉服商越後屋呉服店で延宝元年(1673)の創業。日本橋誕生より遅れることわずか70年である。三越本店は三越のシンボルである二頭のライオン像が正面に立ち店内には天女像が飾られ、毎朝開店とともに「お江戸日本橋のメロディーがパイプオルガンから流れる。

越後屋…延宝元年(1673)三井氏の祖三井高利が三井越後屋呉服店を開業。今日の三越の前身である。越後屋は季節払いの番売ときまっていたのに正札販売の「現金掛け値なし」(掛け売り、掛値をしないで現金取引の正札販売をすること。当時としては画期的な販売法であった)の商法を打ち出して当時世間の大評判となり大繁盛した。一日の売り上げは千両といわれ、百人以上の手代(番頭と丁稚との中間に位置する身分)と大勢の丁稚がおり店は畳敷きの大広間でいつも多くのお客でにぎわっていた。

また、呉服店の道をはきんで北向い(現在の三井銀行東半分)には三井両替店があったが、これも三井高利の経営する店である。

三越のライオン…これはロンドンのトラファルガー広場に建つ「ネルソン戦勝記念碑」の下にあるライオン像をかたどったものといいい青銅製である。ところで昭和の初めごろから三越のこのライオン像に人に見られず馬乗りすることができると戦いに勝つという奇妙な風評が立ち受験生の間で評判となった。

天女像…一階正面ホールに飾られている佐藤玄々氏制作の高さ11m重さ6.7トンの像。金や白金による切金彩色がみられる。天女が上空から舞い降り立つ瞬間をあらわしている。

パイプオルガン…日本には数少ないパイプオルガンでこの奏者は松沢宏氏である。松沢氏は昭和26年以來ずっと弾いているという。10時、12時、15時の三回演奏される。長い間の使用で指あととしてすり減っている鍵盤がみられる。

2. 共同溝見学窓 地下鉄銀座線三越前駅地下道三越入口

地下鉄銀座線三越前駅地下道三越入口の左側に小さな見学窓がある。そこにある説明文は次の通りになっている。

サービス管共同溝

日本橋、京橋通りサービス管共同溝は、昭和47年6月、建設者の施工により、中央区日本橋室町3丁目から同区京橋3丁目までの国道両側歩道下に完成しました。長さは両側あわせて2.7キロメートルあります。この中には沿道のデパートや店舗に必要な電気、電話、ガス、水道、下水道などの管路が収容されています。この共同溝の完成によって道路を掘り返すことがなくなり、各需要者へは、地下から直接供給することができます。またおのこの管路は、安全に保護され、日常の維持管理も容易に行なうことができます。さらに路上の電柱、架空線、マンホールなどが不要となり、街の景観もすっきりして楽しく安心して歩ける通りとなりました。このように共同溝は、都市道路を効率よく利用するうえに、また都市環境を改善するうえに、きわめて重要な施設といえましょう。

建設省 関東地方建設局 東京国道工事 事務所

なおこの共同溝は、銀座共同溝に倣ったものである。

3. 日本銀行 日本橋本石町2-2

明治23年に起工し同29年(1896)に竣工した。ベルギー国立銀行にならって辰野金吾が建てたルネッサンス式花崗岩造りの三階建てで、日本人建築家による明治政府初の国家的建築である。正面には鋭眼の名残あり。辰野金吾は、鹿鳴館を建てたコンドルの教文をうけ、のち渡英し、帰国後近代建築界の後進を育てる。東京駅は大正3年の作品である。

日本橋周辺は銀行が多く都市銀行、地方銀行など合わせると48行91店舗があり全国のほとんどの銀行がそろっている。これというのみに日本銀行があるからである。日本銀行は日本の中央銀行であり銀行の銀行であり政府の銀行でもある。

日銀の敷地は江戸時代に金貨鋳造所である金座があった所で、日銀を建てる前から土の中に金が混じっているとのおかしさがあった。そこで明治政府は、2・3の業者に基礎工事で掘り起こした土を精練して

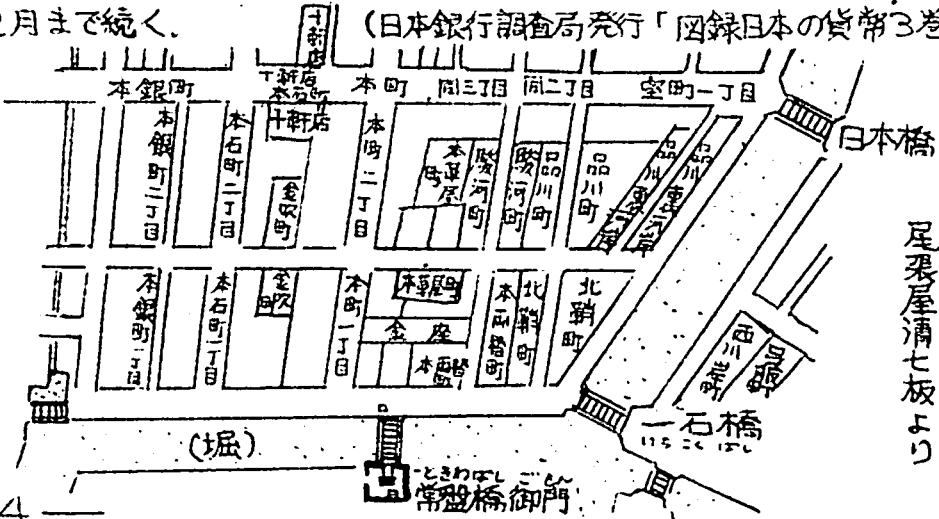
みたら多くの純金がとれた。業者はそのおれとして納付金を納めている。
 なお、日本銀行の南となり一石橋から東京銀行にかけては金座を管理していた後藤庄三郎邸があった。

金座について

金座はひとことではいって金貨鑄造所のことである。金座は、江戸期において大判を除くすべての金貨を鑄造した幕府の鑄造機関で、勘定奉行の支配に属し、幕府から金貨鑄造に関する独占的な特権を与えられていた金座人といわれる町人によって構成された半官半民の事業団体である。金座の事業所は御金改役役所（俗に後藤役所と言われる）、金局（俗に金座人役所と言われる）と吹所（吹屋とも言う）からなる。後藤役所は御金改役（金座の長官にあたる）である後藤庄三郎家の官宅を兼ねた。金座人役所は金座のいわゆる事務所である。吹所は貨幣鑄造工場である。金座は江戸を本局とし、京都・佐渡に出張所が置かれたが、金貨の鑄造は主として江戸金座で行なわれた。金座の組織がこのように確立され、「金座」の名称をとつにいたったのは元禄期（1698年～1702年）の金銀改鑄以降である。それまでは江戸・京都・駿河・佐渡にそれぞれいた小判師たちの下請による原判金の鑄造と、原判金に対する後藤庄三郎家の検定・極印打ちとが分離されていた。なお、後藤庄三郎家の初代御金銀改役の後藤庄三郎元次は徳川氏の金見役として貨幣鑄造にあっていたが、徳川氏が天下をとったのち、そのまま江戸幕府の御金銀改役（宝永2年〔1705〕六代後藤庄三郎より御金改役となる）に任せられ、唐長小判などの慶長金の鑄造にあっている。

元禄8年の金銀改鑄（慶長金が元禄金に改鑄される）にあたって江戸本郷湯島雲雲寺近くの大根畑に金銀吹所が設立された。ここで小判師による原判金の鑄造と後藤庄三郎家による検定・極印打ち作業が一貫して行なわれるようになったが元禄11年（1698年）に廃止され、後藤役所のある地（現在の日本銀行あたり）に移されたのである。以後ここが江戸金座と呼ばれ、金座の本局となり、明治2年2月まで続く。

（日本銀行調査局発行「図録日本の貨幣3巻」を参考）



嘉永三年新刻
尾張屋清七板より

「越ヶ谷びな」について

越谷の人形は、およそ二百年以前の安永年間越谷新町の会田佐右衛門が江戸の十軒店というところでひな人形の作り方を学び、越谷の地で製作をはじめました。その後ひな人形をあつかう店が14軒も軒を並べその隆盛は明治時代に至つても続き、年間21,350個のひな人形を産出しました。この多くの産出される人形の中には「越谷段びな」・「越谷練びな」・「越谷一文びな」という固有名詞のついたひな人形が3種類もありました。このように特定地域の名が冠されて呼ばれるひな人形が三つもあるのは質量ともに越谷の人形作りが秀技なものであつたことを裏づけるといえるでしょう。

現在も越谷産ひな人形の胴柄・頭・手足など人形に関する一切は、他の地域に依存することなく越谷で製作されており昭和59年12月埼玉県伝統的手工芸品に認定されました。(越谷地区習性人形組合のパンフレットより)



山崎田二氏復元の越ヶ谷練びな

越ヶ谷段びな … 20cm大の桐箱に収められた3段飾りのひなで、一つのひなが2~3cmというめずらしいもの。江戸後期に作られた物でひなが段飾りになったのは、これがはしりであろうか。

越ヶ谷練びな … 大きさ15cmぐらい。おがくずを練り固めて彩色したもので、江戸時代に盛んに作られていたと思われる。

越ヶ谷内裏びな … 明治初期、越谷で作られた男女一対のひな。30cmぐらい。顔も衣装も飾りも越谷の技術の高さを証明する名品中の名品。

☆ 十軒店 ☆
徳川五代將軍綱吉が京都より雛司十人を招聘し、日本橋石町(室町三丁目)へお長屋十軒を与えられ以来当所を十軒店と呼び二百八十余年間唯一の雛人形伝統の名所となりました。
十軒が十軒ながら公郷の宿とはその辺をうたわれたものでしょう。
(玉貞人形店パンフレットより)

玉貞人形店はもと現在のエニチカビルが建っている地にあった。十軒店の人形店として江戸時代より続く唯一の伝統ある店である。

埼玉県鴻巣の伊藤忠石氏の説によると「江戸に雛人形組合が成立し、十軒店(日本橋)が出現したのが、元文5年(1740)鴻巣、越ヶ谷で着付雛の製造がはじめられたのが、安永9年(1780)、また三月節向のおよそ1ヶ月前に開かれた雛市が各地に普及したのが、寛政年間(1789~1800)といわれ、幕末期には、江戸(十軒店)、鴻巣、越ヶ谷が関東の三大雛市と称された。」とされている。ひな人形という今日では岩槻が有名であり、岩槻人形のおこりは寛永年間(1624~1639)に伏見の人形師によるとか、元禄13年(1699)、京堀川の仏師恵信によるとか、さだかでないが、「岩槻誌」(島田午蔵著、大正4年)には「...雛人形は、県下鴻巣と相譲願して熾んなものである。初めて此町に斯業の見たのは、天保年間(1838~1843)の事であると云ふ、其後明治27・8年頃より2・3寸の裸体人形を為すものありて、其販路の広きと有利なるに、雛頭を捨て是に趣いてしまった」とあり、桐のおがくずを原料として、天保年間より雛頭が作られ、鴻巣、越ヶ谷の雛人形産地に提供していたが、明治維新により禄を失った岩槻藩工の内職が、忍藩(行田市)における行田の足袋と同じ経過を辿って地場産業に発展したと思われるが、岩槻誌にあるとおり、大正初期には衰微に至ったと見られる。また「日本雛祭考」(有坂与太郎著、昭和6年、東京・建設社)によると「岩槻の雛は越ヶ谷、鴻巣に比して遙かに後世の創業である。天保の頃、岩槻の藩士植松半七が雛の手彫刻を始めたのに基いている。そして雛胴は二代目植松久太郎、雛頭は岩槻藩工頼田長次郎を以て嚆矢とする。其後明治二十七、八年頃より、二、三寸の裸体人形が行なわれ、其販路の広きと有利なるにより、雛頭を捨てそれに走る者が多かったが、現在ではまた旧態に復している。」となって「岩槻誌」と同様のことが記されている。なお、明治8年調子の「武蔵国郡村誌」には岩槻宿、鴻巣宿の物産の項の中に雛人形の記述はなく、越ヶ谷宿のみにみられ、雛人形・造花が年間21,350個生産したとある。

越谷市郷土研究会会報第4号「古志・賀谷」(S58・3刊)の「岩槻人形の起源について」(郷土研究会副会長石塚吉男)を参考にしました。なお、昭和54年に鴻巣の古文書から江戸雛問屋の浅草五町の文七が越ヶ谷宿百姓7名を主とした雛商仲間を相手取り(なお、越谷宿の他は、熊谷宿百姓2名、川越宿百姓4名、大宮宿百姓1名、上谷新田〔現在の鴻巣市〕百姓1名、河原村百姓3名である)文久2年(1862)に江戸南町奉行に「渡世差障」の理由で訴えをみこした訴訟文書の資料が発見されている。詳細は市史編さんだより250号(本間清利著)を見て下さい。

なお「日本雛祭考」の越ヶ谷町の項には「...明治初年頃は越ヶ谷町に卸問屋が五・六戸あったが、現在(昭和6年)では会田家の後裔佐右衛門方一戸に過ぎない」となっている。

4. 乙姫の石像 日本橋北詰東側(中央通り)

昔の日本橋魚河岸(魚市場)を記念して建てられた像で、乙姫が魚の

イスの上すわっている。またイスの両側下には江戸当時のありさまを描いた魚河岸の絵が刻まれている。日本橋のすぐ下流の左岸一帯(現在の日本橋室町1丁目)は、江戸の初めの慶長年間、佃島の漁師たちが河岸に魚を並べて売り出したのが起源となつて以来、江戸・東京の台所として活況を呈したが、大正2年の関東大震災で焼失したのをきっかけに築地へ移転した。このあたりに今でもノリ問屋・かつおぶし問屋・多くのすし屋が残っているのは魚河岸のあった名残である。

佃島…天正年間(1573-1591)摂津の佃村の名主森祐右衛門が家康の招きで村内の漁民34人を引き連れて当時鶴田川の河口の海中に浮洲のようにできていた小島に移住し白魚取りを業とした。佃村からの移住者であるのでこの島を佃島と名付けられた。その祐右衛門の子が幕府の許可を得てここに市場を開いたのが魚河岸の始まりである。

乙姫像に刻まれている碑文は次の通り(縦書き)

本船町 小田原町 安針町等の間 悉く鮮魚の肆なり
 遠近の浦より海陸のけがれもなく鮮魚をここに
 運送して日夜に市を立て 甚賑へりと江戸名所
 図会にのこれる日本橋の魚市魚河岸のありしは
 このあたりなり 旧記によればその漁場は遠く
 天正年間徳川家康の関東入国とともに摂津国
 西成郡佃 大和田 佃村の漁夫 三十余名江戸にうつり
 住み幕府の膳所に供するの目的にて漁業を
 営みしに出づ その後 慶長のころほひ 幕府に納めし
 残余の品を以てこれを一般に販賣するにいたり 漁る
 もの 商ふもの 別 おのづからことに生じ 市場の形態
 漸く整ふ さらに天和貞享とすみて 諸国 各産
 地との取引 ひろくひらけ 従つて その入荷量の膨
 脹 驚くべきものあり かくして やがて明治維新の
 変革に堪へ 大正十二年 関東大震災の後をうけて
 京橋築地に 移転せざるの止むなきに いたるまで
 その間じつに三百余年魚河岸は 江戸及び東京に
 於ける底指の問屋街として また江戸任侠精神
 発祥の地として よく全国的の羨望 信頼と立ち
 えつ 目もあやなる繁栄をほしいままにするを

えたり すなはち こゝにこの碑を建つる所以のもの
われらいたづらに去りぬける墓を追ふにあらず
ひと人に以て われらの祖先のうちたてたる文化を
ながく記念せんとするに外ならざるなり

東京に 江戸のまことの

しぐれかな

昭和二十九年三月

旧日本橋魚市場関係者一同に代て

日本芸術院会員 久保田万太郎 撰

日本芸術院会員 菅道 慶中 書

5. 三浦按針屋敷跡碑 日本橋室町1-16 タカワ宝石店となり

ここは 慶長5年(1600)日本に漂着した最初のイギリス人が住居を構
えた所。碑には日英の両文で書かれている。三浦按針とは ウィリアム
=アダムスの日本名である。三浦とは 家康から相模の三浦郡に250石
の領地を与えられたことにちなむ。また 按針とは 航海士という意味
である。家康の外交顧問となって活躍した人物である。

三浦按針と耶 楊子... 1600年4月オランダの東洋探検船のリーフデ
号が豊後(今の大分県)佐志希に漂着した。この時の乗組員がイ
ギリス人航海長ウィリアム=アダムスとオランダ人 ヤン=ヨース
テンであった。ウィリアム=アダムスはわが国とオランダ・イギ
リスとの通商に尽力し、80トンのイギリス式帆船前船を建造したり
家康に幾何学や数学を教えたりしたが 元和6年(1620)肥前平戸
で病死。日本名は 三浦按針。

ヤン=ヨーステンは 二代将軍秀忠の時 ようやく朱印状をもら
って貿易することができたが そのうち船が難破して死んだ。日
本名は 耶 楊子。なお 耶楊子は 今の八重洲に住居を構え
ていたため 八重洲の町名は 耶楊子の名から生まれた。八重洲
口地下街「水の広場」に ヤン=ヨーステンの銅像がある。

この石碑の碑文は 次の通り(横書き)

史蹟 三浦按針 屋敷跡

ウィリアム=アダムスは 西暦1564年イギリスのケント州に生れ
慶長5年(1600)渡来。徳川家康に迎えられて江戸に入り この地に
屋敷を給せられた。造船、砲術、地理、数学等に業績をあげ、ついで
家康、秀忠の外交 特に通商の顧問となり、日英貿易等に貢献し、元
前6年(1620)4月24日平戸に歿した。

9. 日本橋 由来記 日本橋南詰西側（中央通り）

ここは 高札場 が江戸時代にあった所で それを記念して高札を形どった石の碑があり 当時の日本橋のありさまを描いた絵と 日本橋の由来とを刻んだ銅板が はめ込まれている。また道路をはさんで反対側の日本橋南詰東側 すなわち現在 派出所のある所あたりには さらし場 があった。

高札場…高札とは 石がきを組んだ上に屋根をかけ、そこにはめられている木札に 法度、旋書などや さらし首・重罪人の罪状を書いて立てたもの。

さらし場…処刑三日前の死刑囚の他、主人殺し、女犯の備、心中未遂者の囚人を見せしめのために一般行人にさらした所。

日本橋由来記には 次のように刻まれている。(縦書き)

日本橋由来記

日本橋ハ 江戸名所ノ随一ニシテ 其名四方ニ高シ 慶長八年幕府
 諸大名ニ課シテ城東ノ海浜ヲ埋メ 市街ヲ営ミ 海道ヲ通シ 始テ本
 橋ヲ架ス 人呼ソテ日本橋ト称シ 遂ニ橋名ト為ル 翌年諸海道ニ
 重塚ヲ築クヤ 実ニ本橋ヲ以テ起点ト為ス 当時既ニ江戸繁華ノ中心
 タリシコト推知ス可ク 橋畔ニ高札場等ヲ置ク 亦所以ナキニアラス
 旧記ヲ按スルニ 元和四年改架ノ本橋ハ 長三十七間余 幅四間余ニ
 シテ 其後 改架凡ソ十九回ニ及リト云フ 徳川盛時ニ於ケル本橋
 附近ハ 富賈豪商 麁ヲ連ネ 魚市アリ 酒屋アリ 雑欄 沸クカ 如ク橋
 上 貴賤ノ来往 晝夜絶エス 富貴者ニ秀麗ヲ天際ニ誇リ 白帆近ク
 碧波ト映帯ス 眞ニ上國ノ如シ
 明治聖代ニ至リ 百般ノ文物 日々新ナルニ伴ヒ 本橋亦明治四十四
 年三月新装成リ 今日ニ至ル 茲ニ橋畔ニ碑ヲ建テ 由来ヲ刻シ 以テ後
 世ニ伝フ

昭和十一年四月 日本橋区

なお、万治2年(1659)に作られた橋の擬宝珠の一つが、里江屋(日本橋1-22階)に保存されている。それには「萬治元戌戌九月吉日 日本橋御大工権兵衛」と刻まれている。高さ55cm、円周は101cm。

10. 白木名水の碑 日本橋1-4(中央通り) 東急百貨店

このあたり一帯は埋め立て地のため井戸を掘っても良い水が出る所ではなかったが、ところが 白木屋 二代目の大村彦太郎が正徳元年(1711)、ここで良水を掘りあてたというので「白木名水」として有名になり、以来付近の住民だけでなく諸大名の御善用水・点茶用にも珍重された。今、

日本橋店の正面玄関入口に記念碑があり、そこに流れている水は 地中127mからわき上がるれっきとした地下水である

白木屋 --- 白木屋は寛文2年(1662)に初代大村彦太郎が日本橋に開業した白木屋から発展した江戸一流の呉服店である。戦前・戦後を通し白木屋百貨店としてなじみ深く、創業は百貨店中最古であったが現在は東急百貨店の一店舗となっている。現在の建物は全階ルーパー式の窓のない様式である。

白木屋大火 --- 昭和7年の暮もせまる頃 12月16日午前9時15分白木屋百貨店四階の脱算売場から出火した百層の火事。火はたちまち店内に燃え拡がり四階以上は火の海と化した。この時白木屋の店員が救命袋で顧客を地上に降ろすなど決死の活動を行ない、一人も死傷者を出さなかった。だが悲しむべきことに店員から墜落による死傷者を出したことである。すなわち死者14人(うち1人は問屋関係)、重傷者21名にのぼった。この火事は当時高層建築の大火として世界的に知られ、これ以降の高層ビル建築にきわめて多くの教訓を残した。またこの時、女子店員の和服着用は緊急時において活動的でないことが身にしみて実証され、これ以降女子店員の洋服の奨励が行なわれ、婦人一般のズロース着用が流行するきっかけともなった。

白木屋事件 --- 白木屋は第二次大戦後、経営が振わなかった。昭和31年白木屋の臨時株主総会で社長から部長クラスも含めた総入れ替えがおこなわれ、東横百貨店と合併した。実質上、東急・東横の系列下に入り、その一店舗となった。いわば株式買い占めによる白木屋のとり事件で、これが白木屋事件である。その後、東横は67年東急百貨店と改称し東急百貨店日本橋店となり「白木屋」の名が消えた。

なお「白木名水」にある説明文は次の通り。(縦書き)

東京都史蹟 白木名水

江戸時代のはじめ下町一帯の井戸は塩分をふくみ飲料に適する良水が得られず苦しんだ。

正徳元年(1711)白木屋二代の主 大村彦太郎安全は巨費をもって井戸掘に着手 翌二年たまたま井戸の中から一体の観音像が出たのを機に こんこんと清水が湧き出したと伝えられている。以来 付近の住民のみならず 諸大名の用水ともなって ひろく白木名水とうたわれた。白木観音はその時井戸から出た観音を祀ったものである。

◎日本橋周辺の老舗について

鯉節のにんべん(日本橋室町2-8)・海苔の山本(日本橋室町1-6)・佃煮の鮎佐(日本橋室町1-12)・菊鉾の神茂(日本橋室町1-14)・梅ぼし飴の榮太楼(日本橋1-2)・碁の山本山(日本橋2-5)・本煉羊羹の清寿軒(日本橋小舟町1-2)など日本橋周辺には老舗が非常に多く残っている。なおこのあわりに高島屋や丸善があり、日本信託銀行わきにはさくら通りの碑がある。

高島屋 --- 高島屋百貨店(日本橋2-11)の創業は天保2年(1831)京都で呉服屋を営んだのにはじまる。高級紳士・婦人服、高級雑貨などに力を入れ、世界的デザイナー ピエール=カルダンのコーナーも設置されている。

丸善 --- 丸善(日本橋2-3)の創業は、明治初期で昔から洋書でなじみ深い店で、西欧の新しい文芸知識の吸収に一役かった店である。現在二階が和書、三階が洋書となっている。

日本橋さくら通りの碑 --- 日本信託銀行(日本橋2-3)わきの歩道に立てられている。この碑の碑文は次の通り(縦書き)。

昭和二十年三月 戦火のため 町と共に 灰燼に帰せり
爾來十年 有志再び相謀り 先輩の遺志を継ぎ これを復興す
昭和三十一年四月吉日 日本橋さくら連復契会

◎秤座跡碑(日本橋3の7の20 大日本インキ会社敷地内)

江戸時代、江戸と京都に秤類の総発着所である「秤座」が置かれたが、ここが江戸に置かれた「秤座」のあった所であることが判明した。

天正18年(1590)徳川家康の江戸入国に際して、それまで武田氏の家臣として秤の製造に従事していた甲府の商人、守随彦太郎が江戸に移り、幕府公認のはかり商となり、秤座を取り仕切っていたという。この守随家の15代当主彦太郎氏は、近くの日本橋4丁目で会社を経営している。

石碑は昭和53年10月に大日本インキ会社が自費で建てたもので、その碑文によると「承応2年(1653)、秤座の制がしかれ、ここに置かれたが、のちにここ日本橋の箔屋町に移った」と刻まれている。

11. フリヂストン美術館 京橋1-1(中央通りと八重洲通りの交差点角)

フリヂストンビル内2階にある。石橋正二郎氏が少年収集した内外の美術品を寄贈したもの。浅井忠・黒田清輝・藤島武二・青木繁らの作品の他にロダンの作品などがある。

12. フィルムセンター 京橋3-1

国立近代美術館フィルムセンターは、千代田区北の丸公園に新しくできた国立近代美術館の旧館で、今では映画に関する資料があり、1日2回(3時・6時15分)講堂にて映写がおこなわれている。もと国立近代美術館であった所である。

13. 京橋跡碑 中央通りと首都高速道路1号線の交差した所

中央通りと今の首都高速道路1号線との交差した所に橋(京橋)が架かっていたが、今では川(京橋川)も埋められ、橋もなくなってしまった。昭和40年9月に高速道路建設のため川は埋められ橋は撤去され姿を消したのである。京橋とは江戸時代日本橋の里程元標から東海道、つまり今の中央通り(国道1号線)を京都に行く時通る橋というので名付けられたもの。

ここにある石柱は、明治8年(1875)に石造りに架け換えられた時の擬宝珠欄干の親柱である。そこに刻まれている碑文は次の通り(縦書き)

京橋は古来よ其の名著たる 創架乃年八慶長年間なるが如し
 明暦以降屢々架換へらる大正十一年末現橋に改築せらる此の
 橋柱は明治八年石造り架換へられたる時乃擬宝珠欄干の親柱
 して橋名の書ハ 明治の詩人 佐々木支膺乃揮毫するものなり
 昭和十三年五月

※変体仮名…ア(里)=り て(後)=は り(何)=か じ(連)=れ ぼ(波)=は っ(御)=の(に
 乃(の)・お(能)=の て(天)=て る(留)=る も(毛)=も

14. 江戸歌舞伎発祥の碑 新京橋ビル(京橋3-6)前(中央通り)

京橋(橋名)と日本橋(橋名)との間に江戸時代中橋という橋があったが江戸時代明暦のころ堀が埋め立てられたので以後橋はなくなった。このあたりが江戸で一番古く舞行街が開けた所だという。人形芝居、狂言踊りなどの掛け小屋が立ち並び江戸歌舞伎もこのあたりで発祥した。すなわち初代猿若助三郎は寛永元年(1624)に幕府の許可を得て猿若座を中橋南地にて開いたのである。この由来を記したのが猿若座の橋を形どって作られた「江戸歌舞伎発祥之地」の碑である。なお、後に木挽町の栄女ヶ原という空地一帯が江戸歌舞伎の中心となる。現在の東急銀座ホテル・日産ビル・新橋演舞場にかけての地である。

この石碑の碑文は次の通り(縦書き)

史蹟 江戸歌舞伎発祥之地

寛永元年二月十五日 元相藏若中村勘三郎 中橋南地と言ここのちえる此地
に狹若中村座しばいざらの芝居橋あをあ上ぐ これ江戸歌舞伎の発祥はつしょう也 茲こゝに史
跡あとを接じ 斯石このいしを鎮め 国劇歌舞伎発祥の地として永く記念す
昭和三十二年七月 建立
江戸歌舞伎 旧史 保存会

15. 大根河岸の碑 新京橋ビル(京橋3-6)前

京橋(橋名)の川上かわの上にあった青果市場である。この京橋の大根河岸は神
田の大根河岸と並んで繁昌したが 昭和10年に築地の中央卸売市場に移
り落を閉じた。

この石碑の碑文は次の通り(縦書き)

遠く寛文の初め 江戸教寄屋橋邊に 慶の人 教名打寄り さ>や
かなる青物の市を立てしに 遠近の村村より作物多く集りぬ 是等の
慶は ゆき>の人 或いは附近の人々に 之を蓄ぐ 数年ならずして
慶の數増加し 漸く市場の形整い 江戸府民のため無くてはかなわぬ
機関とはなりぬ その後 火災に罹りしにより 東海道の要路にあたり
且つ水運の便ある京橋川の北岸 組屋町へ移転す 舊この市場
への大根の入荷 殊更 夥しきにより 世の人 大根河岸と呼び遂に
京橋大根河岸市場と稱する 甘藷問屋教名を加入せしめ 問屋三十七
軒 仲買十七名を 教うるに至りしかば 府尹の認可を得て組合を設
立し ここに始めて大市場としての規模 完成す
大正十二年九月 大震災の危難に遇いしも 組合員は 鋭意復興に
努力し 以前に優る盛況を呈す 時に問屋六十八名 仲買百五名な
り 昭和十年二月中央卸売市場法実施の一環として 東京市中央卸売
市場の開設さるゝに際し 國家の要請 呑みかたく 父祖三百年 髮
著の絆を断ちて 插籃の地を去り 築地本場に入り 問屋は一体とな
りて会社を起し 仲買は旧態のまま閉業す その後 第二次世界大戦
のため 幾多の变革ありしも 戦後再び旧状に復し 業況益好
調を極む 斯る折柄 旧京橋青物市場隨記念碑 建設の議 起り 期
成会を組織して 之が実現に努め 漸くその工を竣えたり 依て こ
ゝに その由来を記し 開設以来二百八十余年の歴史を回顧し 其盛
時を憶ふたよりとなす

昭和三十四年六月 藤浦富太郎撰 江川瑠澤書

慶 = 「慶」の異体字(俗字)

16. 警察PRセンター 京橋3-5 (中央通り) 今はない。

一階展示場には 警視庁のしくみ、活動状況、交通、刑事、防犯関係および「大震災に備えて」の展示物がみられる。また2階は 図書室・レク教室、4階は柔剣道の道場、屋上は ローラースケート場となっている。

17. 煉瓦銀座之碑及びガス灯の記念碑 京橋の所、テアトル東京前

明治・大正のころの銀座通りにみられた煉瓦とガス灯を記念して建てたもの。ガス灯は大正10年まで見られた。現在、銀座通りにみられる街路灯は 昭和43年10月に新設されたもので、特殊な光線を出す水銀灯である。一柱に二基のボンボリをつけている。なお この付近に都営の公衆浴場「銀座湯」がある。

銀座湯(東京都中央区銀座1-12)・・・銀座の人口が減りそれによってフロ屋の廃業が あついでみられ とうとう銀座には、旧金春通りにある「金春湯」と 旧木挽町にある「草津湯」の二ヶ所となった。そこで都がこれを補おうと昭和50年に建てた都営の公衆浴場がこの銀座湯である。不動産評価は約4億円といわれている。

18. 東京セントラル美術館 銀座2-7(中央通り) 銀座貿易ビル5階

現代画家の企画展が中心である。8階は常設展で入場無料。

19. 銀座発祥の碑 銀座2-7(中央通り) オリンピックビル前

慶長17年(1612)、駿府(今の静岡市)より銀座役所がここに移る。ここで銀貨幣の鑄造がおこなわれたのである。そして このあたりの新両替町を 通称「銀座町」と称した。明治2年に「銀座」という通称名を正式に町名として取りあげた。今日「銀座」とは 繁華街を表わす代名詞となって銀座と名の付く商店街は全国に多くみられる。この銀座発祥の碑の 碑文は 次の通り。(縦書き)

この碑のみ横がき

銀座発祥の地 銀座役所跡

慶長十七年(紀元二二七二年 西暦一六一二年) 徳川幕府 此の地に銀貨幣鑄造の銀座役所を設置す。当時 町名を 新両替町と称せると 通称を銀座町と呼称せられ 明治二年遂に 銀座を町名とする事に公示さる

昭和三十年四月一日 建之
銀座連 聯合会

[銀座について]

① 銀座の歴史

銀座は、昔、海であった。日本橋から京橋・銀座・新橋・品川にかけて遼^{とウ}淺^{せん}の海であった。これを埋め立てたのが徳川家康で、今からざっと400年ほど前のことである。そしてここに最初に住んだ人は徳川幕府御用の職人たちであった。銀座は職人の町となったのである。この職人は職種によって住む所がきめられていた。つまりこの地域を多くは職種によって地割され、職種の町名がつけられた。例えば、染物職人であれば紺屋町^{こんやまち}弓師は弓町、両替商は新両替町(銀座があった日本橋の方にすでに「両替町があったので、銀座の方を「新両替町」と呼んだ)、鋳^{くわ}づくりの職人は鋳屋町、鋳物職人は鋳町、木材を鋳で木挽きした職人は木挽町というようにつけられたのである。このように付けられた町名は明治2年(1869)に新両替町などを銀座と名を改めた他はほぼ残され昭和初期までずっと続くのである。

銀座は明治2年旧暦の12月28日と明治5年旧暦の2月26日(この時、銀座一帯はほぼ全焼)の二度にわたって大火にみまわれ、この大火事がきっかけとなって当時の東京府知事の由利公正はここに不燃焼都市の計画を立てた。これを受けた明治政府は国家予算の4分の1の巨費と4年の歳月を費やして銀座通りの8間幅を防火も兼ねて15間幅(27m)の道に広げ、すべて煉瓦家屋の建物を建てた。そして、わが国初めてのヨーロッパ風の煉瓦街(俗に「8丁ロンドン」と呼ばれた)がこの地に誕生した。初めのころは日本人にはなじまなかったが明治3年ころから人力車が走り、明治5年に新橋にわが国初の鉄道が開通し、明治7年かス^ス行^{ぎょう}がとまり、また乗合馬車が走るようになるとハイカラな繁華街となり銀座見物の人たちがどっとくり出して活況を呈し、東京府の表玄関として明治文化の発祥地となった。明治15年新橋・日本橋間に鉄道馬車が開通する。手をあげるとどこでも乗ることができたのである。大正時代には「銀アラ」が流行した。その後大正12年の関東大震災で銀座全域はほぼ消失するが、震災復興に伴う区画整理で晴海通り、外堀通りの拡幅が行われ、4丁目交差点、数寄屋橋交差点が生まれた。昭和16年から20年までの太平洋戦争による再度の消失と戦後の動乱期による大きな痛手を受けながらも自らの力で立ちなおし復興し今日まで繁栄が続けている。

- ・銀アラ…銀座通りの商店街をアラアラ散歩すること。銀座にカレ-ができてから「銀アラ」ということはが流行した。
- ・交通機関の変遷

明治3年ころ荷車を改良した程度じんりきいの人力車走る。のち日本橋の
 和泉和助の考案した人力車が走り一世を風靡する
 明治年ころ乗合馬車のりあひはしる
 明治15年 鉄道馬車はしる
 明治36年 市街電車はしる。のちの都電である
 大正8年 乗合バスはしる 通称「青バス」と呼ばれる
 昭和9年 地下鉄銀座線が通る。地下鉄銀座線は 最初は
 浅草・上野間が昭和2年に開通。昭和7年神
 田・日本橋三越間。同年日本橋三越・京橋間。
 昭和9年 神田・上野間、京橋・銀座間と開通し
 ていくのである。

② 銀座の町名変遷

江戸時代には 今の銀座1丁目から4丁目あたりにかけて新町替町があり
 ここを俗に「銀座」と呼んでいた。なぜならこの町に銀座役所が置かれ
 ていたからである。しかしのちに明治・大正と銀座が発展するにつれて
 「銀座」の名は 周囲の町も含めた今の銀座1丁目から8丁目までを総称
 するようになっていく。つまり 明治2年に 新町替町1丁目、三十間
 堀1丁目、与作屋敷 が銀座1丁目、新町替町2丁目、三十間堀2丁目
 が銀座2丁目、新町替町3丁目、三十間堀3丁目が銀座3丁目、新町
 替町4丁目が銀座4丁目、町名が改正され、ついで昭和5年、銀座1丁
 目から4丁目の他に 5丁目から8丁目、銀座西1丁目から西8丁目まで
 き 銀座と呼ばれる地域が広がった。また昭和26年からは、木挽町1
 丁目から8丁目までが銀座東1丁目から東8丁目となり、昭和44年になると
 銀座1丁目・銀座西1丁目・銀座東1丁目が銀座1丁目になるように、銀
 座1丁目から銀座8丁目と統合され 今日にいたっている。

③ 銀座の川

今日の銀座の町は 昔は周囲が堀や川で囲まれていたが、現在はそれらが
 埋め立てられ高速道路に代わっている。しかしこれらの堀や川に渡された
 橋が地名として今日まで残っているものがある。

◎西側の外濠そとぼり… 数寄屋橋あきやまのところは昔、外濠のあった所で ここに数寄
 屋橋がかかっていた。この外濠は埋められ、土橋どはしから数寄屋橋・城辺橋しろべへ
 かけて高速道路になっている。この高速道路の真下には 数寄屋橋ショッ
 ピングセンター・西銀座デパート・有楽町フードセンターあづかがおかれている。

◎北側の京橋川… 京橋のかかっていた所は 外濠とつながっている京橋
 川で、今は 川も橋もなく 代わって高速道路がみられる。

◎南側の汐留川しほどめ… 新橋のかかっていた所は 外濠とつながっている汐留
 川で、今は川も橋もなく高速道路となっている。ただ汐留名庭園しほりきわづの西側

から南側にかけて汐留川が残ってみられている。高速道路の真下は新橋センターのショッピング街となっている。

◎東側の築地川...築地と銀座との境界になっている所が昔は築地川が流れていた所で昭和33年になくなって今は高速道路が通っている。この築地川の名残は浜離宮庭園の北側にみられる。

◎今の銀座地域の真ん中を流れていた三十間堀...三十間堀は今日の東側よりの真ん中を南北に流れていた川であったが昭和24年に埋め立てられ建物が立ち並び全くその面影はない。晴海通りの銀座4丁目交差点と歌舞伎座との中間に三原橋地下道入口があるがこの付近を俗に三原橋といわれているが、このあたりが昔の三十間堀のあった所である。三十間もの幅広い堀であったのでこう名付けられた。しかし文政年間(1818~1829)には19間に縮小される。この堀はテアトル東京の裏の木谷橋公園から中央競馬馬券売場前、三原橋、東京温泉前をまっすぐに線を引いたところに流れていたのである。

④ 銀座の道

銀座の大通りには銀座の中心を抜ける中央通り 俗にいう銀座通り、これは日本橋から続いており昔は東海道だった所。今は国道1号線である。この中央通りに平行して土橋(銀座8丁目)から数寄屋橋を経て城辺橋(銀座1丁目)にむかう外濠通り 新橋から江戸橋にむかう昭和通り、これらにクロスする晴海通りがある。

⑤ 銀座の歩道の変遷

銀座の歩道はわが国最初の歩道であった。当時の歩道は煉瓦舗装で両側には煉瓦造りの家屋が立ち並んでいた。この銀座通りのことをやがて煉瓦通りといわれた。そしてこの通りに銀座が、大正のころ流行するのである。今日の銀座通りの歩道は御影石でできている。この御影石は明治36年以来昭和42年までこの銀座通りを走り続けてきた都電の敷石に使われていたものである。なお銀座は昭和45年8月にわが国初の歩行者天国を実施している。

⑥ 銀座0丁目0番地

もと外濠や汐留川だった所は今日では高速道路が走りその真下に商店街があるがこれらは中央区なのかとなりの千代田区なのかはっきり所属区が決まらないまま正式な住所が今もってない所である。銀座側からみればいわば銀座0丁目0番地といったところであろうか。中央区としてはこれを中央区銀座0丁目1番地としてある。

⑦ 銀座の老舗

銀座には日本橋と同様 老舗が多い。例えば 煎餅の松崎(銀座4-3) 呉服の越後屋(銀座2-6) 瀬戸物の小柳陶器店(銀座1-7) あんパンの木村屋などがある。

20. アーク灯の記念碑 銀座2-6 大倉本館(大和銀行)(中央通り)

大和銀行銀座支店の通りに面した壁面に アーク灯の絵のついた銅版の記念碑がはめこまれている。明治15年(1882)11月に それまでのガス灯をしのぐ明るさの電灯がここに一基だけ誕生した。これが白色光を放つアーク灯であった。当時設立されて間もない東京電力会社が自社の前に電灯の宣伝のため取りつけたものである。しかし銀座の煉瓦街のガス灯には とってかわらなかつた。銀座の街灯がガス灯から電灯にとってかわるのは のちの大正10年(1922)になってからである。

この碑文は 次の通り

明治15年11月 ここに始めてアーク灯をつき 不夜城を現出した 当時の銅絵を彫刻して その記念とする
昭和31年10月1日 銀座連聯合会 照明学会 関東電気協会
東京電力株式会社

21. 銀座共同溝 銀座地下鉄総合駅松屋入口

銀座の地下鉄総合駅松屋入口の左側に 小さな展示窓がある。これが共同溝である。銀座の空を美しくするためあつて通りの空中にある多くの電柱・電線や ガス管・水道管などを地下の3メートル程度のコンクリートの共同溝の中に まとめておさめたものである。

説明文は次の通り

銀座共同溝は 昭和43年10月 銀座通りの一丁目から八丁目までの両側歩道の下に建設されたことによって完成しました。長さは両側あわせて約2キロメートルあります。この中には銀座通りのデパートや店舗に必要な電気・電話・ガス・水道・下水道などの管路が収容されています。この共同溝の完成によって道路が再び掘りかえされることがなくなり、それぞれの管路は安全に保護され 維持管理も容易に行なえるとともに地下から直接各需要者に供給することができます。さらにこの共同溝の工事とあわせて行なわれた銀座通り改修工事によって 街路灯や街路樹が新しく生まれ変わり、恒久的な御影石の歩道の上をいつまでも安心して歩くことができるようになりました。このように共同溝は近代都市における道路の効率的な利用をはかるうえにきわめて重要な施設といえましょう。

株式会社 松屋

22. 真珠王記念碑 銀座4-5 御木本真珠店前 (中央通り)

真珠養殖して人工的に真珠を作ることに成功した御木本幸吉は 真珠王と呼ばれた。ここは御木本の店舗をかまえた所である。

碑文は 次の通り (縦書き)

御木本幸吉翁は 本年九十五歳 養殖真珠の創始者で 真珠王の名は 全世界に及んでゐる 当処南北十間の地は 翁の店舗の場所である。

昭和二十八年四月 銀座通 聯合会

23. 服部時計店の時計塔 銀座4-5 和光 (銀座4丁目交差点)

昭和7年6月に服部時計店(現在の名は和光)の現在のビルがこの時に完成している。同時に「服部の大時計」の名で親しまれる大時計の時計塔もビルの上に姿をみせたのである。大人がひと抱えするほどの大きな鐘物の重りがぶら下がったチェーンを モーターで巻き上げる豪快なドイツ製の振り子時計である。ちなみにこの時計は 昭和20年の東京大空襲で文字盤が爆風でこぼされた時以外は止まることがなかった。戦後は下の建物が米軍のPXに一時壊されたがその後と街ゆく人々を楽しませた。昭和29年6月10日に 最新の電気時計にかわり、ウェストミンスター寺院の鐘と同じ音のチャイムを取りつけに、英国生まれのチャイムである。昭和41年にセイコーウォーツに取りかえられ 急激の国産化が実現。そして昭和49年に修繕のために一時消えるが、昭和7年以来、銀座をずっとながめてきた長命の大時計といえる。なお、大時計の四方を向く文字盤が正確に東西南北を向いているという。

ここ銀座4丁目交差点の旧称は「尾張町交差点」と呼ばれ、服部の大時計の他に、三菱・三菱・ライオンが向かいあっていた。

★三菱電機スカイリング---旧称「三菱ドリームセンター」と呼ばれ、9階建の斬新なスタイルで立っていて、銀座が一望できる

24. 日動画廊 銀座5-3 日動火災海上保険 (ソニービル裏 外濠通り)

銀座周辺には多くの画廊がある。昭和6年に日本ではじめての画廊が銀座に登場した。これが東京画廊で翌年日動画廊と名を改め 今日に到る。現在の銀座の画廊の繁栄は まさに日動画廊の功績といえる。なおこのとなりには ソニービルが晴海通りに面してあり、また教寄屋橋通りには、二つとなりに 眼科図書館がある。画廊とは画廊の店をいう。

ソニービル(銀座5-3)---このビルが完成したのは 昭和41年である。このビルの晴海通りに面した壁面には テレビのブラウン管を埋め、これをネオンサインに仕立てて文字版にし いろいろな光を描いてい

る。またこのロービルの地下一階につながる階段は のぼりおり
すると音階がでて楽しめる音の出る階段である。

25. 「教寄屋橋ここにありき」の碑 晴海通りと高速道路との交差した付近
外濠を埋めて高速道路を作ったので 今にはここには橋はない。泰明小学
校側の教寄屋橋公園内にある噴水のアブストラクト風の彫刻は 笠置秀男
の作である。またこの公園の晴海通りに面した所には 後世の人々に
ここに教寄屋橋が架かっていたことを伝えるため「教寄屋橋ここにありき
と刻まれた記念碑が立っている。この記念碑は取りこわされた教寄屋橋
の石を使っている。そしてこの記念碑の碑文は「君の名は」で有名にな
った劇作家 菊田一夫の筆によるものである。「君の名は」は 戦後 間
もない昭和27年NHKで放送され話題を呼んだもので 夜の8時30分の放送
時間になると全国の女風呂がカラになったといわれたほどである。
碑文は 次の通り) (縦書き)

教寄屋橋の碑

寛永六年(西暦一六二九年)江戸城外見附として教寄屋橋が初めて架
けられた時は幅四間 長三間の木橋であった。橋名は幕府の教寄屋役
人の公宅が門外にあったのに依るといふ。見附の城門新形は維新の際
に撤去され ついで大正大震災後の復興計画によって完成を見た近代的
美観を誇る石橋が 銀座の入口を抗することになった。

再興三十年 首都交通の激増は この界隈を更に変貌させた。外濠
上を高架車道が 地下には地下鉄が走るようになって橋の姿を消し こ
こは渾然たる大銀座の一角となった。本会は茲に旧橋の遺材を以て碑
を建て 感慨深い東京文化の変遷を偲ぶよすがとした。

一九五九年四月 教寄屋橋公園美化協力会

26. 関東大震災記念塔 教寄屋橋小公園(派出所裏) 再=「福の異体字
(略字)」
教寄屋橋小公園内に震災記念塔がたてられている。この記念塔には、
かぶとをとり、たいまつをささげた青年の立像があり この像の台座には
大震災の教訓をもとに「不慮の地震に不測の用意」の文字が後世の人々に
伝えるため刻まれている。除幕式は昭和8年(1933)9月1日に行なわれ
た。この日の11時50分(地震のおきた時刻のころ)に、近くの教会の鐘、
サイレン、交通信号の音などが いっせいに鳴りわたり、集まった人々は
街頭の人も含めて大地震で亡くなった多くの犠牲者への黙祷を捧げたので
ある。碑文は 次の通り。(縦書き)

この塔は 大正十二年(一九二三年)九月一日午前十一時五十八分 東京を中心に関東一帯をおそった大震災を記念するため広く浄財を集めて十周年の昭和八年九月一日に建てたもので わが国彫塑界の巨匠 北村西望先生が「平和の神」を象徴して制作されたものであります。標語の「不意の地震に不断の用意」は 当時 朝日新聞社が全国から懸賞募集した十余万の応募の中から選んだもので 長くこの日をしのび二度と惨害をくりかえさぬよう注意を喚起するものであります。

昭和三十五年 九月一日

震災共同募金会

朝日新聞厚生文化事業団

27. 島崎藤村・北村透谷記念碑 銀座5-1 泰明小学校前(みゆき通り)
 泰明小学校の校門の左に「島崎藤村・北村透谷 幼き日 ここに学ぶ」と刻まれた石碑が ひっそりと立っている。この学校は 明治11年(1878)の創設で 当時としては異例の煉瓦づくり二階建てという豪華坂の小学校であった。なお近衛文麿・岡田嘉子や 朝丘雪路もここで学んだという。なか この記念碑の説明文は次の通り (中山千夏)

島崎藤村・北村透谷記念碑

所在地 中央区銀座五-1-13(5の1の13)

この泰明小学校は明治十一年六月に開校され 文芸家北村透谷や島崎藤村はその初期の卒業生であった。

透谷(1868~1894)は付近の呉家から通学し明治十五年卒業し同二十六年藤村等と雑誌「文学界」を創刊し 近代浪漫主義の開拓者といわれた。

藤村(1872~1943)は 明治十四年木曾馬籠より上京し 付近の柿の森先から通学し、しばらく帰郷ののち 別の縁家に移り 十七年卒業した。三十九年、日本自然主義文学の先駆的作品「破戒」によって作家の地位を確立し さらに「春」「夜明け前」などの大作を遺した。

昭和五十一年二月

中央区教育委員会

28. リッカー美術館 銀座6-2 リッカー会館7階

リッカー会館7階にある。浮世絵版画の展示が主で浮世絵愛好家・研究家の訪れも見られる。なお同会館3階は東京国際美術館である。

29. みゆき通り

帝国ホテルを抜けて泰明小学校前を通り外濠通りを横断し豊番館の前を通り中央通りを横断して松坂屋横をはいる通りで晴海通りに平行した通りである。「みゆき」とは明治天皇ご在位のころ天皇が山下橋からこの通りを通り抜けて築地にあった海軍病院などへ行かれたので天皇にちなんで「御幸」と命名された。みゆき通りには柳の並木道と赤煉瓦の歩道それに、ランフ風の街灯は明治・大正のころの煉瓦通りを偲ばせる。なおこの街灯の上部先端には「鳳凰」の飾りがついている。

30. 石川啄木の歌碑 銀座6-6 朝日ビル前 並木通り

朝日ビル前に石川啄木の歌碑がある。この朝日ビルのある所は瀧山町といい昔朝日新聞社のあった所。啄木は明治43年からここに勤めたが3年後の27歳の若さで他界した。そこで啄木ゆかりの地として昭和48年ここに啄木の歌碑が立てられた。その碑には「京橋の瀧山町の新聞社。灯とともるころのいそがしきかな」と歌集「一握の砂」初版本の活字を拡大して用いた書体で刻まれ裏側には啄木(きつつきという意味)にちなんできつつきが彫られている。なおこの近くに銀座能楽堂がある。この歌碑の碑文は次の通り。

石川啄木が瀧山町の朝日新聞社に勤務したのは明治四十二年三月から四十五年四月十三日二十七歳でこの世を去るまで約三年間である。この間、彼は佐藤真一編集長をはじめとする朝日の上司や同僚の厚意と恩情にまもられて歌集「一握の砂」「悲しき玩具」詩集「呼子と口笛」など多くの名作を残し庶民の生活の哀歎を歌うとともに時代閉塞の現状を批判した。

銀座の人びとが啄木没後、満六十年を記念して朝日新聞社跡に歌碑を建立したのはこの由緒によるものである。

昭和四十八年四月一日

日本大学教授 文学博士 岩城之徳

銀座能楽堂(銀座6-5 外濠通りに面している)……舞台は正規の京間三間四方の総ヒノキである。ここで能楽堂友の会の運営によって各派の能が演じられている。

31. 銀座柳の碑 中央通りと高速道路との交差付近 派出所そば

昔は銀座の柳は有名であった。銀座の煉瓦通りの初めのころの並木は松や桜であった。しかしほこりの舞い上がる道では桜は花を

咲かせないし、松もあまり美しくないという理由で、明治10年、柳の木が植え替えられたのである。その後、この柳の並木が多くの人々に愛されたが、関東大震災の時、約半が焼けたのを機に、銀杏の木に植え替えられてしまった。しかし人々の銀座の柳に対する愛憎の情は、積もる一方で銀座の柳を取り戻す運動も盛り上がり、また「首恋しい銀座の柳」という歌詞で始まる流行歌もはやった。そしてついに昭和5年再び銀座通りは柳の並木道となったのである。これを記念して立てたのがこの碑で、碑には「首恋しい銀座の柳」を「植えてうれしい銀座の柳」と変えた歌詞とその五線譜が刻まれている。その後、第二次世界大戦で柳は再び、戦後一時復活したが昭和43年に柳はすべて根除かれ、現在に到っている。この歌「東京行進曲」の作詞は西条八十である。なお、この碑の近辺は、新橋芸妓のあった所で、銀座8丁目6番地の角の建て物は、新橋桜番の名ごりである。碑は次の通り

銀座柳の碑	
西条 八十 詞 中山 善平 曲	
植えてうれしい銀座の柳	江戸の名残りのうすみどり
吹けよ春風紅傘日傘	今日もくるくる人通り

新橋桜番跡(銀座8-6 新橋会館)……新橋桜番はもともと芸者衆の手配をする所であったが、今では稽古場として多くの人が入り出す所となっている。なお、桜番とは、芸者屋の取締り、芸妓に口のかかった時の取次ぎや玉代(料金)の精算などをする事務所である。芸妓とは酒宴の間をとりもち、弦歌・舞踊などで客を楽しませる女で芸者(芸子)のこと。新橋芸妓は、今の銀座8丁目を中心に新橋を含めた当時の汐留川の兩岸に、江戸末期に誕生した。現在の銀座8丁目の養生堂裏あたりに金春と呼ぶ屋敷があり、常盤津などを放ち、芸妓は師匠の金春屋敷の周辺に住み芸をみがいたのである。金春屋敷のある通りを金春通りと呼ぶ。現在では、銀座8丁目7番地と8番地との堺に通る道である。明治維新後、新橋芸妓は、日本橋や柳橋の芸妓から新橋は薩長の田舎者を相手にするといわれたみがあったが、銀座の発展とともに、大いに発展した。

32. 新幸橋 銀座8丁目2番地と3番地との堺、高島道路下
 銀座は、まわりが堀や川に囲まれていたため、大火災の時、逃げ場を失いがちであった。この稀れは、大正12年の関東大震災の際、逃げ場を失った多くの犠牲者が物語っている。そこで昭和4年、今の銀座7・8

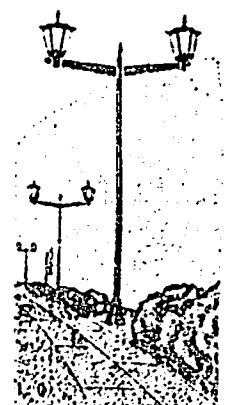
丁目から日比谷側へ逃げられる橋を架けたのがこの新幸橋である。この橋は住民の念願であったが、東京市はなかなか実行に移さなかった。のでしびれをきたした住民の手によって架けられたものである。資金面ではこの碑の^{ふたしよ}建立者名二名の負担がほとんどであった。碑文は次の通り(縦書き)

鑑大正十二年^の之^ゆ惨禍 仰有志^の願^を 架橋^を深^く于此^に 處
 以寄^す増^す東京市 永資^を公^に安全
 昭和四年十月 莊司岩三郎
 藤平久太郎

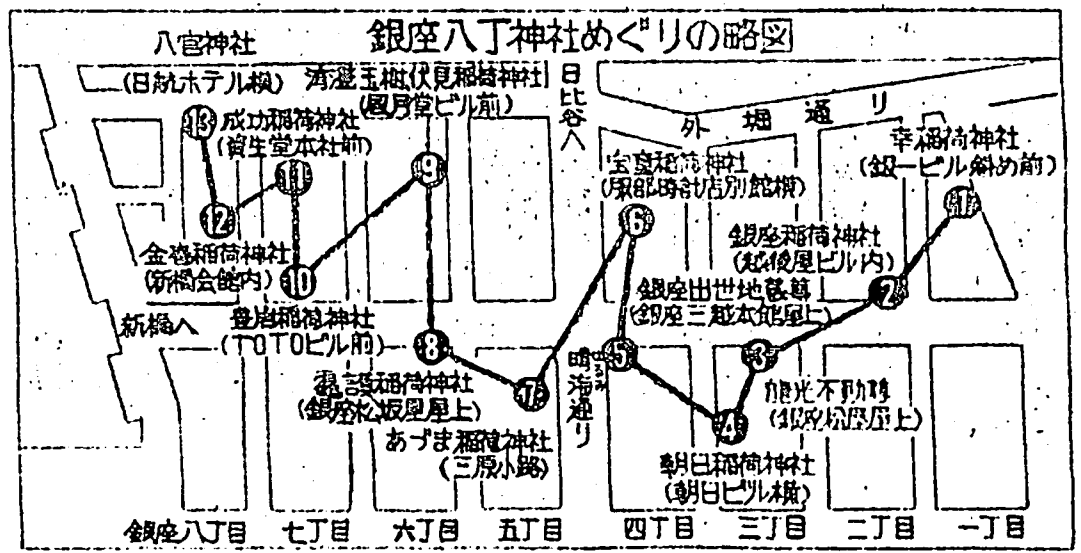
大正十二年之惨禍ヲ鑑シテ 有志ノ願ヲ仰ギ 橋梁ヲ此處ニ架ス
 以テ東京市ニ寄増シ 永ク公ノ安全ヲ資ス

次の参考文献をおもに利用・引用した。

- 白馬出版株式会社「銀座わが街」(銀座会編)
- 日本交通公社「最新旅行案内5. 東京」
- 人文社の「郷土資料事典 東京都」
- 日本交通公社「新日本ガイド 東京横浜鎌倉」

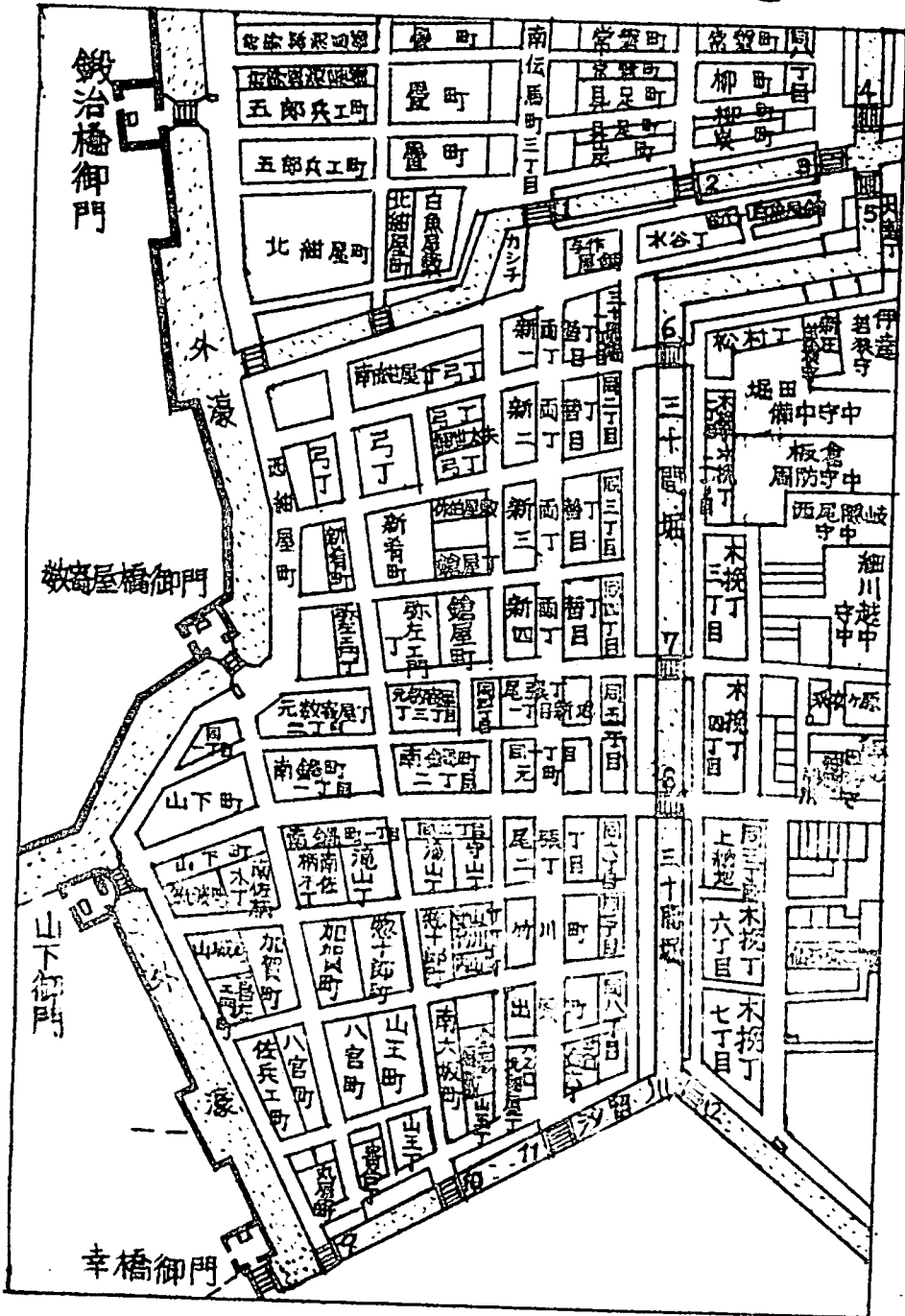


銀座巡礼(13札所めぐり)



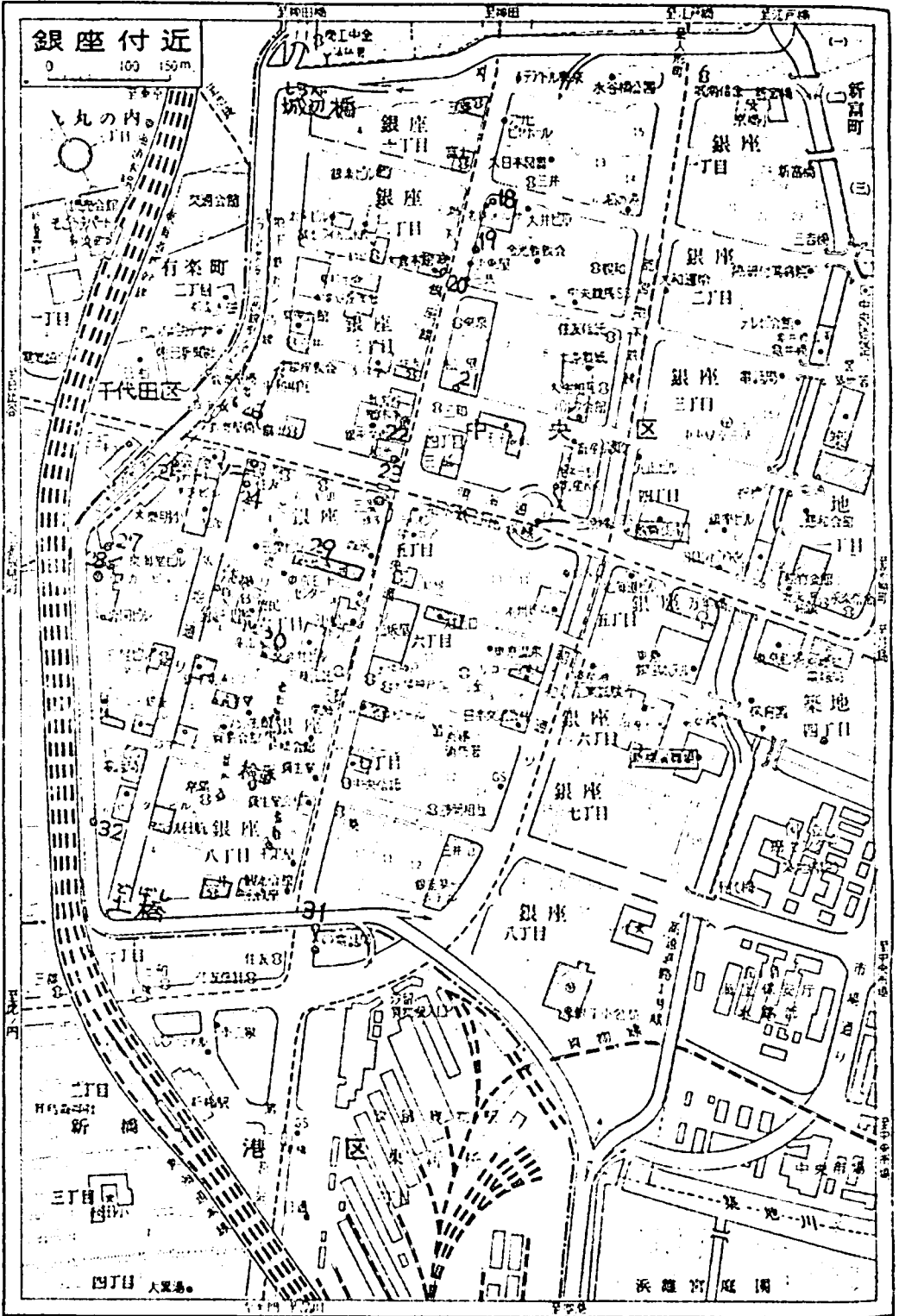
昭和48年の「大銀座まつり」の時、上記の神社めぐりが新設された。

江戸時代の銀座(新両替丁)周辺



- 橋名 1. 京橋 2. 中橋 3. 白魚橋 4. 弾正橋
 5. 真福寺橋 6. 紀伊国橋 7. 三原橋 8. 一之橋
 9. 土橋 10. 難波橋 11. 芝口橋 12. 汐留橋

銀座付近 (東京地誌出版株式会社出版「四方区図誌」より)



日本橋付近

(東京地図出版株式会社出版「区外地図集」より)

